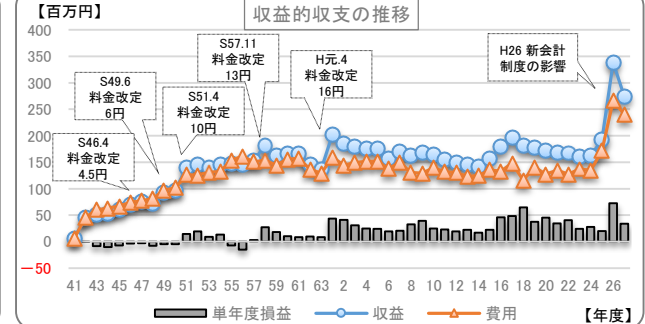
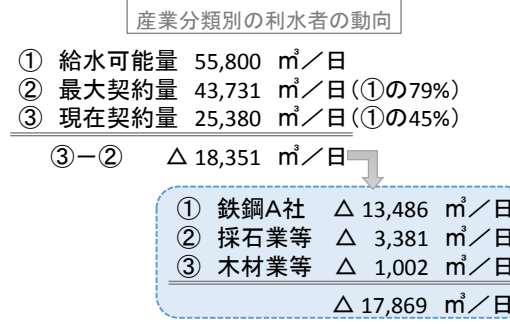
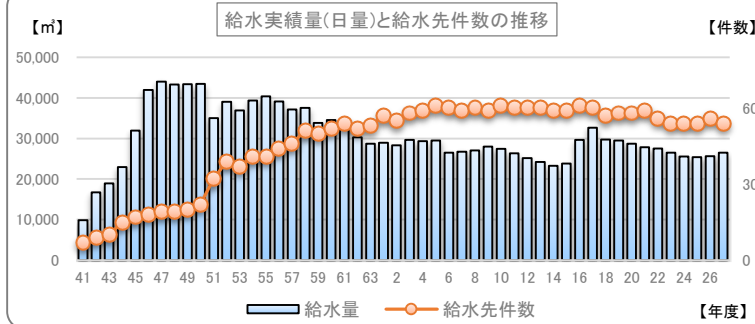


1. 現状と課題

- ① 給水能力に対する工水利用割合がS47年の79%をピークに、近年では、50%を下回る状況。
- ② 全国的にも工業用水の需要は漸減傾向にあり、厳しい経営状況。
- ③ 近い将来の発生が予想される南海トラフ地震に備える必要。



2. H28年度の検討状況

検討の概要

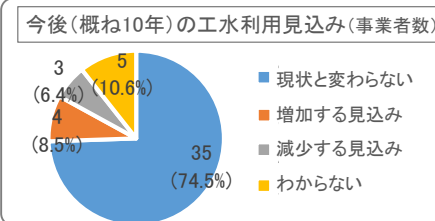
1. 経営状況等の現状把握と分析
2. 専門的な助言を得るためのアドバイザー会議の設置
3. ユーザーへのアンケート調査の実施
4. 企業誘致の可能性を含めた関係機関へのヒアリング
5. 老朽化施設の更新費用の把握
6. 将来の工水需要の予測に基づく経営シミュレーション
7. 課題解決に向けた今後の取組み方針の検討

需要が低下傾向にあるものの、産業振興や雇用、税金などの面で、地域経済に大きな影響を与える公益性の高い事業であり、安定供給を通じて、引き続き地域経済の発展に寄与する必要がある。

今後に向けての課題整理

(1) 将来に向けての需要予測

- 既存ユーザーへのアンケート調査の結果では、大幅な増、減を伴う計画はない。



(2) 維持管理等に必要な経費の試算

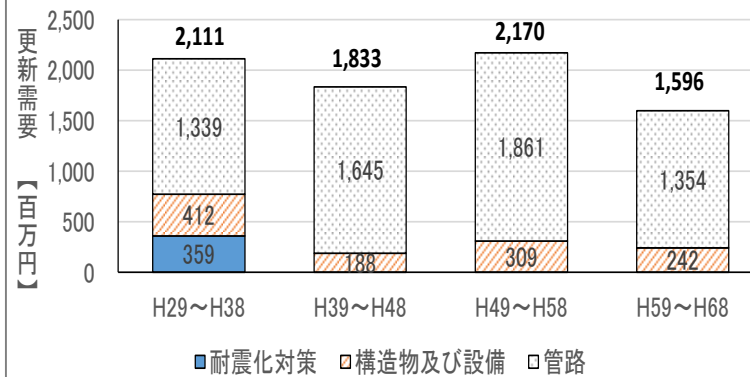
- 今後の40年間で更新等に必要な総事業費は、管路の約62億円を含め合計77億円余りとなっている。

経営シミュレーションの結果

現在の経営が維持できれば、管路を除いた「耐震化対策」及び「構造物及び設備の更新」等は実施可能であるが、「管路の更新」を実施するためには、新たな財源確保の手立てが必要！

経営シミュレーション結果の概要

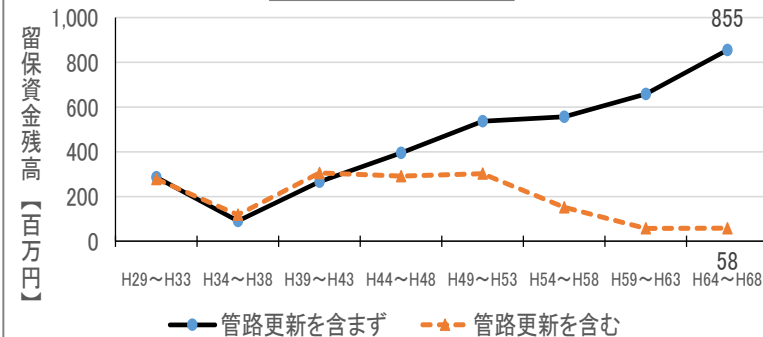
鏡川工業用水道施設の更新需要の推移



(参考) 管路の更新需要の試算 [金額(千円)]

更新年度	更新区間数	総延長 (m)	更新需要合計 (千円)
H29~H38	3区間(海底配管2区間を含む)	2,386.7	1,339,358
H39~H48	3区間(送水管、棧橋地区の一部など)	2,783.0	1,645,166
H49~H58	7区間(送水管、棧橋、港地区など)	4,044.6	1,861,039
H59~H68	5区間(港、仁井田地区など)	4,565.1	1,354,214
合計		13,779.4	6,199,776

留保資金残高の推移



(参考) 資金の不足解消に必要な給水料金の試算 (1m³当たり)

年度	H29~	H34~	H39~	H44~	H49~	H54~	H59~	H64~
料金	16円	18円	20円	22円	24円	26円	28円	30円

大きな二つの課題解決に向けた取組みが必要！

3. 課題解決に向けた今後の取組み方針

課題1

産業構造の変化等に伴う需要の低迷への対応

- (1) 事業の安定的な継続に向けた経営効率化の検討

- ◎ 運営主体についての検討
 - 現行の運営体制における効率的な経営の推進
 - 類似事業との連携の可能性についての検討
- ◎ 維持管理委託等の見直し
 - コスト削減効果が期待できる業務への継続的な取組み

- (2) 需要に見合った施設規模等の検討

- ◎ 設備更新の際には、ダウンサイジングやスペックダウンの可能性を常に念頭に置いたうえで、施設全体を俯瞰し契約水量の実態に見合った合理的な設計に努める。

- (3) 需要の拡大に向けた取組みの推進

- ◎ 管路の延伸による新規給水の可能性等の継続検討
- ◎ 新たな給水契約の獲得に向けた営業活動の継続

- (4) 経済活動と地域雇用に貢献のできる経営戦略及び利用料金の改定の検討

- ◎ 管路更新は、利用料金との関係も含めユーザー側との情報共有を図りながら対応方針を慎重に検討する。
- ◎ 経営戦略の改定に向けた専門家の意見等を踏まえた検討

課題2

南海トラフ地震・施設の老朽化対策への対応

- (1) 耐震対策が必要と診断された施設への対応

- ◎ 具体的な改修計画の策定と進捗管理

- (2) 耐震対策と関連づけた管路等の設備更新への対応

- ◎ 専門家の意見を踏まえた更新計画の策定に向けた検討

- (3) 東日本大震災や熊本地震等で得られた知見への対応

- ◎ 実効性の担保に向けたBCPの見直し
- ◎ 施設の計画的な定期点検による適切な維持管理